

健康

とくしま医療最前線



肝がんの原因の65%を占めるC型肝炎は、新薬によって治る病気になった。従来の注射薬「インターフェロン」を中心とした治療に比べて副作用が少なく、12週間の服用でほぼ完全にウイルスを除去できる。徳島大学病院肝疾患相談室の岩橋衆一医師（消化器・移植外科）と立木佐知子看護師に、C型肝炎の仕組みや新しい治療薬について聞いた。（山口和也）

C型肝炎

肝炎の原因となるウイルスはA～E型の5種類が存在する。C型肝炎ウイルスは1989年に発見され、それ以前は効果的な治療法がなかった。「沈黙の臓器」と呼ばれる肝臓の病気が、自覚症状が現れにくい。C型肝炎ウイルスの感染者は推定150～200万人。このうち半数が感染に気付いていないとされる。ウイルスに感染すると、ほぼ7割が慢性肝炎になる。自覚症状がないため、本人が気付かないまま進行し、10

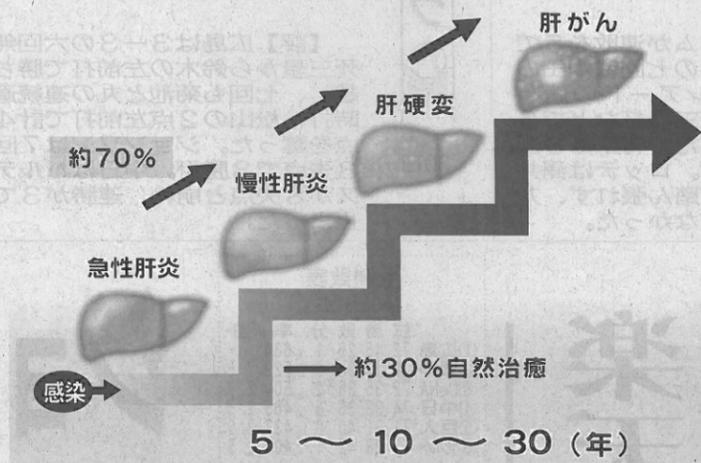


岩橋衆一医師

立木佐知子看護師

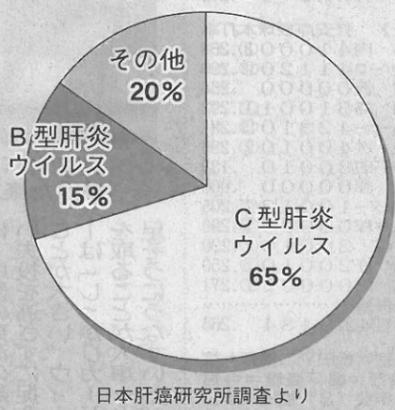
9年に発見され、それ以前は効果的な治療法がなかった。「沈黙の臓器」と呼ばれる肝臓の病気が、自覚症状が現れにくい。C型肝炎ウイルスの感染者は推定150～200万人。このうち半数が感染に気付いていないとされる。ウイルスに感染すると、ほぼ7割が慢性肝炎になる。自覚症状がないため、本人が気付かないまま進行し、10

C型肝炎の経過



飲み薬で治る病気に

肝がんの原因



日本肝癌研究所調査より

副作用少なくウイルス除去

フェロンと併用せず、飲み薬だけで治療できる画期的な新薬が発売された。C型肝炎は大きく1型と2型の2タイプに分かれている。15年に発売された「ハーボニー」は、患者の7割を占める1型に効果を発揮する。1日1錠の服用を12週間続ければ、ほぼ完全にウイルスを除去でき、インターフェロンのような重い副作用も少ない。2型に有効な新薬も出ており、ほぼ全てのC型肝炎を治療できるようになった。新薬だけに長期的なデータがなく、治療後も定期的な検査が欠かせない。岩橋医師は「ウイルスを除去しても、肝炎から肝がんへ進行する可能性はある。肝がんの発見は難しい場合もあるので続けて受診してほしい」と話している。（第1土曜掲載）

徳島市で肝がん講座 29日

肝がんの治療や予防法を紹介する公開講座「肝がんで死なないために」（日本肝臓学会、徳島大学病院共催）が29日午後1時から、徳島市のシビックセンターで開かれる。参加無料。

肝臓専門医で武蔵野赤十字病院の泉並木院長が、B型・C型肝炎や肝がんの最新治療法について講演。徳島大学病院の医師らが肝臓病の症状や医療費の助成制度を説明する。医療ソーシャルワーカーらによる相談会では、個別の質問に応じる。

問い合わせは同病院肝疾患相談室〈電話088(633)9002〉。

検査無料、治療には助成

C型肝炎の患者、ウイルス感染者は、B型肝炎と合わせて国内に300万人いるとされる。治せる病気になったものの、依然として国内最大級のウイルス感染症だ。病気が撲滅するには、肝炎のウイルス感染を減らす前に発見できるかが鍵になる。検査は無料、治療には助成。市町152カ所の医療機関で、無料の肝炎ウイルス検査を受けることができる。C型肝炎の治療に当り、12週間の治療で1人当たりの費用は約470万円に上る。国の医療費を押し上げる要因と指摘される一方、肝がんに進行する患者を減らせ、将来の医療費を削減できるとの見方もある。